

(このプロジェクトは、9月から3月までの長期にわたる授業・指導計画で行ったため、時ではなく学習活動項目ごとの振り返りをまとめた)

|   | 活動項目   | 成果・子どもたちの様子   | 備考   |
|---|--|---|--|
| 1 | <p><b>「わたしってだれ？」</b></p> <p>&lt;めあて&gt;</p> <p>自分のルーツを知り、自分や周りの人について目を向けよう。</p> <p>国旗についても知ろう。</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分、両親、祖父母の生まれた国、住んでいる国などを確認することで、自分と繋がっている自分の家族について認識することができたようだ。</li> <li>・自分の家族と友達の家族との違いも見ること、自分の周りに色々な人がいることに気づいた。</li> <li>・自分たちが住んでいる国や生まれた国、親戚が住んでいる国など、国を意識するうえで、色々な国の国旗の違いにも目を向けた。資料を見ながら似ている国旗などを探すと、色や形に注目していた。</li> <li>・自分と周りとの関係の認識や、『ぼく』という本の読み聞かせを聞いて、自分は唯一無二で、大切な存在であることに少しは気づけたようだ。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部の学齢の子供は、自分のことが中心で、周りに目を向けることは難しい。そこで、まず、自分に目を向け自分とは誰なのかを知ることから、身近な人や周りとのつながりに気づいていくという方法を試みた。</li> <li>・自分を知って自分を大切にすることは、周りの人も大切にすることに繋がる。</li> <li>・自分を知ることから始まり、それが、自分の周りの人や社会やものごとを知ることに繋がり、様々な違いや多様性に気づくことへの出発点となっていた。</li> </ul>  |
| 2 | <p><b>「世界中の色々な国の衣食住について知ろう」</b></p> <p>&lt;めあて&gt;</p> <p>色々な国の衣食住について知ること、自分たちの周りや世界にある違いや多様性に気づこう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や自分の周りのことを知った上で、国旗や自分たちの生活に大きく関わりのある色々な国の衣食住について目を向けた。</li> <li>・食・衣・住の順で、項目ごとに、最初は、自分たちに一番身近な日本とイタリアの違いについて知り、その後、ほかの国について学ぶという形で視点を広げながら学習していくことで、国ごとに違いがあることや学んだ国々の多様性にも気づくことが出来た。</li> <li>・食べ物飲み物、民族衣装・家などの写真や絵などの資料を見ながら、まずグループで気づいたことを自由に発話しあい、その後、全体で発表したりまとめたり確認したりし合うことで、各児童一人一人が、授業中のどこかの場面で活動することが出来ていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住のどの項目に関しても、どの資料やどんな具体物を提示するのがいいのかを考えながら、幼稚部の学齢の子どもたちにも分かりやすい提示資料や素材を探して選ぶ作業にとっても時間がかかり大変だった。</li> <li>・提示した資料や提示の仕方に対して子供たちの反応があまりよくないときもあり、次回には、その反省点を活かして、調整しながら準備をしていった。</li> <li>・子供たちが興味を示す的確な提示物を用意することや提示方法は、大変重要である。</li> </ul> |

|   |  |  |
|---|--|--|
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動の時、日本語カレベルが様々な子供たち同士で発話する中で、日本語がよくできる友達の話し方を聞いたり、その言い方を真似してみたりすることで、知らなかった言葉を覚えていくこともあり、日本語力が弱い子供たちの語彙も少しずつ増えていく様子が見られた。</li> <li>・作業をするとき、早くできた子がまだ出来ていない子を手伝うなどの、仲間同士で助け合う態度も生まれてきた。</li> <li>・食べ物についてのクイズ形式の活動や着せ替えパズルなどのゲーム形式の活動、スライドで世界の様々な家を見たり、習った国の食べ物や民族衣装や家の絵や写真を各自が世界地図のプリント上に貼ったりなどの作業をすることで、子ども達は興味を持って意欲的に学習に参加できていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部の子どもたちの学習には、写真や絵やスライド等の、具体的で視覚的にアプローチできるものやカードなどを使って実際に子供たち自身で活動できるものが、有効だった。</li> <li>・衣、食については、子ども達も比較的理解がしやすかったようだが、住については、少し難しかったようだ。</li> <li>・色々な国の家の学習の時、日本の家の中にある伝統的・特徴的なものも学習したが、それらについては写真だけでは理解が難しく、お茶室としても使用しているMIGLAの教室にある畳、そして、茶道で使用する炉を実際に見せることで、和室や囲炉裏について説明することが出来た点は良かった。</li> <li>・衣食住の関するものが出てくるお話の読み聞かせも、導入に活用した。</li> <li>・1項目について2週続けて学習し、深めていったことで、概念の定着がはかれた。</li> </ul> |
| <p><b>【体験学習】</b></p> <p><b>* 世界の飲み物体験</b></p> <p>&lt;めあて&gt;</p> <p>世界の食べ物で学習した飲み物を味見してみよう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な国の食を学習する中で、出てきた飲み物に子ども達が興味を持ち、それが世界の飲み物体験に繋がった。</li> <li>・ミントティーから始まり、紅茶、日本茶、抹茶等のお茶の葉を実際に触ったり飲んだりしての体験学習は、子供たちにとって大変興味深かったようで、毎回楽しみにしていた。</li> <li>・緑茶の味見の時、緑茶を振ると、どのように味が変わるかの実験も行った。ペットボトルに入れた緑茶を皆で順に回して振ってから、味見をすると甘く変化していたことに、子供たちから、思わず「あま〜い」という声が上がっていた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの興味からアイデアが生まれてやることになったお茶の味見体験を通して、国語だけでなく社会や理科などの要素も入った総合学習が行え、子ども達自身がとても意欲的に取り組めたことは、大変良かった。</li> <li>・飲み物体験や茶道体験に一生懸命取り組む姿を見て、体験学習は幼稚部学齢の子ども達にとって大変有効で意義がある学習であると考えられる。</li> </ul>   |

|          |  |   |  |
|----------|--|---|--|
| <p>3</p> | <p><b>* 茶道体験</b></p> <p>&lt;めあて&gt;</p> <p>茶動体験を通じて日本文化に触れ、おもてなしの心に気づこう。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、自分達で茶道を体験し、抹茶の飲み方やお菓子やお抹茶の運び方などを学んだ。後日、その学習を活かして保護者へお抹茶でおもてなしをした。どちらの活動も、子ども達は一生懸命に取り組み、緊張感を持ちながらも大変積極的に参加し楽しんでいた。</li> <li>・お菓子やお茶の運び方は、2回しか練習をしなかったにも拘らず、ほとんど間違えずに、お父さんやお母さんを上手にもてなすことが出来ていた。また、このような特別な形で、学んだことを披露できるのが嬉しく少し誇らしいようだった。</li> <li>・お茶を通して日本文化に触れることで、日本人としての意識も感じることが出来ていたようだ。</li> <li>・茶道体験をする前に、坐禅体験もして心を落ち着けた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶道体験は、茶道のマナーだけでなく、茶道の持つ精神や意味なども含めて学びいい機会になり、人を思いやる気持ちや感謝の気持ち、人の為にできることをしようという意識が茶道体験以降、芽生えてきたように感じる。</li> <li>・子ども達による茶道でのおもてなしという形の、保護者参加型授業を行うことで、保護者にとっても日本文化や日本語教育に対するモチベーションをあげる良い機会になった。</li> <li>・子供たちの茶道の体験学習は今後も継続していきたい。</li> </ul>        |
| <p>4</p> | <p><b>「わたしてだれ？」から「同じ地球に住んでいる世界の中の私達」へ視点を広げる</b></p> <p>&lt;めあて&gt;</p> <p>丸い地球に住んでいる自分とみんながいる。世界には色々違うところがあるけれど、この同じ地球上にいるみんなが仲良くするにはどうしたら良いだろう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の衣食住の多様性に気づいた学習のまとめから、その多様性の中に自分や家族や友達もいることを知る。(世界の中の自分たち)</li> <li>・個人での作業から共同作業へ➡大きな地球の絵の上に手をつないで繋がっている自分達、仲間の姿を表現する➡近くの人でも遠くの人でも皆仲間だから仲良くしよう！という意識を持つ。</li> <li>・世界の子供たちの生活のビデオを観て、自分たち以外の国の子供たちの生活を知るとともに、現在のウクライナの子供たちのビデオも観て彼らの現状に気づいた。</li> <li>・泣きながら避難しているウクライナの子供たちのビデオに、児童達はしんとして真剣に見入っていた。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしてだれ？」 = 自分→家族→回りの社会へ→社会や世界の多様性を知る→世界のいろいろな人達の中の自分→地球に生きている皆が繋がっているのだから、仲良くしよう = 「みんな仲よしプロジェクト」</li> <li>というふうに、自分から出発して次第に視点を広げていく作業を試みた。</li> <li>・ウクライナの子供たちのビデオにどのような反応をするのか、見せる前は、少々不安もあったが、真剣に見ている子どもたちの姿から、彼らなりに何かを感じていることが窺えた。</li> </ul> |

|   |  |   |   |
|---|--|---|---|
|   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちと同じぐらいの年齢のウクライナの子供たちの現状を知ること、ヨーロッパに暮らしている自分たちの身近で起きていることに気づき、世界で起きている問題を知った。</li> <li>・これらの問題に対し： 相手を思いやって行動するという茶道の体験学習を思い出し、色々な国や違いがあってもそれらを受け入れて、皆が仲良く暮らすためにはどうしたらいいかを考えた。「手紙を書いて置いてくる」「お花を持って行ってあげる」など、子供たちなりに一生懸命考えていた。</li> <li>・各児童で、2学期の今までの学習をまとめた冊子づくりを開始する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会に生きる子供たちにとって、幼い頃から、こういった世界で起きていることについて関心を持つ視点を育む事は大事なことでと考える。</li> <li>・小さい子供でも、子どもたちなりに問題意識を持って考えたり意見を共有したりすることで、自分たちの周りで起きていることに関心をもつことが出来ることが分かった。</li> </ul> |
| 5   | <p><b>【プロジェクトのテーマ曲】</b></p> <p><b>「世界中の子供たちが」</b></p> <p><b>「小さな世界」</b></p> <p>&lt;めあて&gt;</p> <p>テーマ曲を歌うことで、自分たちのプロジェクトや活動を意識しよう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界中の子供たちが」と「小さな世界」の2曲を、「みんな仲よしプロジェクト」のテーマ曲として、活動時に身振りも入れながら歌うことによって、自分たちの行っているプロジェクト活動をさらに意識できるようになっていった。</li> <li>・何度も歌っているうちに、きれいな声で出来るだけ声を合わせて歌おうとする態度が見られる児童もいた。</li> <li>・最初は、歌うことに参加できなかつたり身振りがうまくできなかつたりした児童も、回を重ねると次第に参加できるようになっていった。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ曲を決めて歌うことは、子供たちにこのプロジェクトを意識付けすることに役立った。</li> <li>・何度も歌っているうちに、子供たちのお気に入りの歌になっている。</li> </ul>   |
| <p><b>【伸ばせた力、子どもの変化、保護者のコメントから】</b></p> <p>年中と年長の複式学級である幼稚部では、学齢に関係なく、家庭の日本語環境や各児童の特性によって、日本語力や学習活動能力において差があるのが現状である。1学期には、自分と違うクラスメートを受け入れないような態度も見られたが、このみんな仲よしプロジェクトの学習を進めていくうちに、子供たちの意識も変わり、そういった点も改善されていった。</p> <p>日本語力に差のある子ども達が、写真などの資料を一緒に見ながらグループで自由に発話活動をすることで、回を重ねるごとに、語彙も増え、全体の場でも、これまで自分の意見を伝えることが苦手だった子どもも積極的に発言したり学習活動に参加したりするようになった。また、このプロジェクトの学習では、想像していた以上に、大分前に習ったことを、時間がたっても、子ども達はしっかり覚えている。これは、単なる知識理解的な学習ではなく、世界における衣食住の多様性というテーマで焦点を当てての様々な角度からの概念的なアプローチや実際に行う体験学習を通して、言語的な知識だけではない概念としてインプットされていたり、頭ではなく体を使って体得したりして子供たちの中に定着していているということが分かる。</p> <p>また、今回の学習において、教室で学んだことが教室外の生活の中での子供の言動に繋がっているという保護者からのコメントがあり、子供達の中で学習したことの概念が育っているということも感じた。また、保護者参加型の授業を行い、親子で共同作業的な活動をしたり子ども達が楽しく生き生きと学んでいる姿を見てもらったりすることは、家庭での支援を意欲的にやってもらえ、学校の教育に協力してもらえるような、保護者の方々への啓蒙にも繋がっていくと思う。</p> |  |   |   |

## 【所感】

このプロジェクトをスタートさせた当初は、この題材で本当に子供たちは意欲的に活動してくれるのか、このテーマの概念は少し難しいかもしれないと、半信半疑の部分もあったが、子ども達自身で行う色々な種類の活動を取り入れたことにより、語彙も増え、どんどん積極的に発言や活動ができるようになる等の変化が見られた。従って、少し難しいかなと思う題材でも、学齢に合わせたアプローチの仕方次第で、幼稚部学齢の子供達でも意欲を持って活動に取り組めること、日本語力の差はあっても、子供たち同士でのアクティブラーニングを多く取り入れる中で良い相乗効果が生まれ、教師がそれらを総括してまとめたり、整理して確認してやったりすることで、子供一人一人がその子なりに力をつけていっていることを実感している。

## 【みんな仲良しプロジェクトにおける、2学期の活動に続く3学期の活動】

- ・『へいわってどんなこと』の絵本の読み聞かせから、子供たちなりの平和について考える。
- ・ウクライナ支援のために活動している人のビデオや、ウクライナの子供たちが願いを語っているビデオを観る。
- ・世界の皆が仲良くするため、つらい思いをしているウクライナの子供達のために、自分たちは何ができるかを考える。
- ・ウクライナ支援のために、教師やスタッフのサポートで、幼稚部児童がお店屋さんになりバザーを行う。
- ・バザーについての振り返りと、今までの全ての学習活動についてのまとめをする。
- ・まとめの冊子作りの続きを行い完成させる。